

そうだ。田んぼに行こう!!

良い穂をつくるためには

丈夫で登熟良好な穂をつくるためには、『良い茎、良い葉、良い根っこ』が必要不可欠です。無効茎が少なく、根が生き生きとして、下っ葉まで受光体制が整った稲姿になっているか？適期田植えやワキの防止対策等により、初期生育は確保できたのか？中干し、溝切りを中心とした稲の生育調節はしっかりできたのか？その答えは、今現在の稲姿が物語っています。

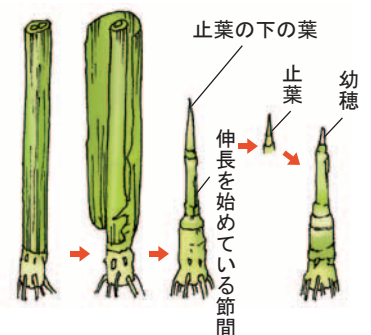


穂肥と水管理は極めて重要

7月以降の肥培管理及び水管理は、極めて重要です。この時期の栄養不足及び水不足は、その後の実りに重大な影響を及ぼします。基肥一発肥料でも、高温年で葉色が維持できない場合など、追肥が必要なケースもあります。

穂肥施用時期と施用量（10a当り）のめやす

肥料名	1回目			2回目	
	出穂前 日数	幼穂長	施用量	出穂前 日数	施用量
魚沼ロマン有機穂肥	20~18 日	8 mm	10~15kg (N成分 1~1.5)	12日	10~15kg (N成分 1~1.5)
有機30 魚沼ロマン穂肥専用	18~15 日	10~15 mm	8~12.5kg (N成分 1~1.5)	10日	8~12.5kg (N成分 1~1.5)



穂づくり期の稲は大忙し!

7月の稲は、全力を挙げて、次世代へ命をつなぐための仕事をしています。出穂30日前頃は、枝梗づくり・籾づくりが行われ、穂を实らせるための葉をつくり、実りを支える土台となる節間を伸ばし、茎を太く充実させます。また、地下部では、太い直下根を伸ばし、うわ根もしっかり張らせます。ぜひ田んぼに足を運んで稲を見ましょう。（地域によっては、ホタルが見ごろかもしれません。）

! 各種研修会に参加しましょう!!

あぜみち指導会等で生育調査結果を基にした詳しい情報を提供しています。指導会に来れない方は、各営農センターに指導会資料を備えてありますのでお気軽にご相談ください。

7月は、栽培記録カード(第1回目)の回収時期です。忘れずに提出しましょう!!